

## 丸森町立館矢間小学校

### I 学校所在地域の災害特性および地域連携に係る現状等

#### (1) 地域特性

- 阿武隈川の浸水想定区域内であり、想定最大規模の場合 0.5m～3m 程度の浸水、浸水継続時間は 24 時間未満、学校と阿武隈川の間は氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域である。立地する館矢間地区（9 地区）のほとんどは、浸水域であり、最大浸水深は 10m、浸水継続時間が 3 日間の部分もある。小学校は、洪水時の指定避難場所ではある。しかし、館矢間地区の住民をすべて受け入れられるほどの床面積は無い。そのため、地区の住民の避難場所は、小学校を含めて 5 カ所に分散することになる。
- 令和 4 年度学校再編による学区地域の広域化にともない、学区内に土砂災害危険区域が増加する。また、主要道路の浸水危険性が高く、阿武隈川増水時には、自宅に帰られない児童が多数発生する。令和 3 年度中にハザードマップが更新される。

#### (2) 地域連携

館矢間まちづくりセンター

区長との面談、避難場所と避難所運営について地域住民との話し合い（8 月実施）

参加者：町防災部局、館矢間地区連絡協議会会長、区長会長、館小校長、館小主幹

内容：地区別避難場所について、広域避難、地区別、高齢者及び配慮者

館小避難場所の確認（体育館、多目的室、各教室、階段、屋上等）、車椅子対応

#### (3) 課題

- ①令和 4 年度学校再編による広域学区内への対応、②安否確認方法について、③広域に伴う様々な災害への対応、④児童を保護者へ安全に引き渡す方法、警報に伴う学校の判断

### II 取組状況

#### 1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

##### (1) 学校防災マニュアルの見直し

マルチハザードによる対応（地震、火災、水害等への対応）

学校再編の広域化に伴う学区内の危険箇所の把握の実施

##### (2) 地震想定避難訓練：6 月実施

震度 6 強を想定しての第一次避難場所への避難訓練を実施。3 階からも短時間で落ち着いて避難することができた。地区別人数確認も実施し、引渡し訓練時にも対応できるよう訓練した。ドローンにて空撮を行い、訓練後に職員で成果と課題について話し合った。

##### (3) 引き渡し訓練：7 月実施

地震発生後に保護者への引き渡しを行った。2 時間以内にほぼ全ての児童を安全に引き渡すことができた。

##### (4) 町防災主任者会

令和 4 年度丸森町内再編のため危機管理マニュアルの見直しを図っている。特に危険箇所の確認、スクールバスの運行に関する内容について共有するようにしている。

(5) 火災想定避難訓練：11月実施

防火シャッターを作動し、防火扉を通り避難する訓練を実施した。出火場所を毎年変えながらより実践的になるよう工夫している。角田消防署丸森出張所職員指導のもと通報訓練、水消火器による消火訓練も行った。「未来への絆」「安全の本」を事前・事後指導に効果的に使用している。家庭で火災が発生した時の対応についても学年の発達段階に応じて指導している。

(6) 課題

- ・訓練時における避難時間を計測して反省時に生かす。
- ・負傷児童を想定して教師が土のうを抱えながらの訓練を実施する。
- ・学校統合による引渡し訓練の見直しが必要である。特に水害時における引き渡しの判断基準を明確にし、保護者・地域との共有化を図るようにする。車での迎えに対応できるよう地域との連携についても検討する。
- ・大雨時における地震想定避難訓練の実施の検討。
- ・集中豪雨などの突発災害時における阿武隈川の決壊等を想定した避難訓練の実施の検討。  
児童を上階への避難及び職員室の重要物品の退避、避難者対応、保護者への連絡など
- ・ショート避難訓練  
朝の時間、休み時間、清掃時間等、予告なしの避難訓練を次年度に実施できるよう計画する。

## 2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 震災遺構「中浜小」見学：8月実施

語り部から震災当時の話を聞き、中浜小を見学することができた。学校防災アドバイザー、町防災部局、町教委、館矢間地区連絡協議会（会長、事務長、区長）が参加しグループ別に視察を行った。

(2) 防災だよりの発行

館矢間地区住民、館矢間小保護者向けに防災だよりを発行した。地域連携型防災実践協力校としての取組について、防災研究授業、震災遺構研修の様子等について地区内に広く発信している。

(3) 丸森未来防災フェスタ：12月3日 参加対象：地域住民（区長、町防災部局、保護者等）5、6年児童が地域へ発信した。

実践研究1年目の取組についてパネルに掲示して展示した。  
地域住民と連携してのフェスタを行った。

参加者からの感想

- ・よく調べられていてまたタブレットを使っていて素晴らしいと思いました。調べて分かったことを順序立てて発表していて参考になりました。小学生ならではの視点で考えられていてよかったです。
- ・子供たち、先生方の防災意識の高まりを感じました。また地域への発信という意味でも良い取り組みだと思います。コミュニティー単位での取組を大いに参考にさせていただきました。
- ・これまでの取組についてよく分かりました。地域との連携は防災だけでなく様々な面で良い効果を与えるものと思います。来年度の取り組みも楽しみにしています。
- ・課題や問題点を調べるだけでなく、児童が自分達で考えた提案や自分達に出来ることを発表できることを発表されており素晴らしい発表だった。
- ・未来防災フェスタでどのような発表が行われるのか期待していたが、5・6年生がここまで考えてくれた事を大変嬉しく思いました。丸森の未来は明るい。

### 3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

#### (1) 校内研修

##### ①校内ワークショップ1回目：5月実施

防災授業5年の事後検討会を行い、研究の方向性について全職員で確認した。  
館小児童のよいところ、防災研究で実践できそうなことについて話し合いを持った。

##### ②講話1回目：6月実施

講師：学校防災アドバイザー東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛様  
丸森町館矢間地区の水害時の地域危険性等の地域特性について講話をしていただいた。

##### ③震災遺構「中浜小見学」：8月実施

語り部ガイドから震災遺構について詳しく説明いただきながら見学した。震災遺構の防災学習の下見も兼ねて実施することができた。

##### ④校内ワークショップ2回目：9月実施

避難訓練についての成果と課題についてグループに分かれてタブレットを活用して話し合いを行った。

##### ⑤校内ワークショップ3回目：10月実施

講師：被災職員2名  
東日本台風で被災した職員からの話を聞き、感じたことや当時の自分の状況について発表し合った。日頃から防災意識を持つことの大切さを共有することができた。

##### ⑥講話2回目：11月実施

講師：学校防災アドバイザー東北大学災害科学国際研究所 准教授 柴山明寛様  
防災授業に1年についての事後検討会を行い、研究内容について共有することができた。  
「教職員の防災力を高めるために」講話内容

#### (2) 授業実践

##### ①5年防災授業 「館っ子レンジャーズ ～丸森未来防災フェスタを開こう～」

ねらい：台風19号について、詳しく知りたいことを考えることができる。  
自分の課題について出し合い、クラス全体で共有していった。

##### ②6年防災授業 「館っ子防衛隊Ⅱ ～わたしたちにできること～」

ねらい：丸森未来防災フェスタに向けて、グループの学習テーマを設定しよう。  
被害、避難・避難所、ボランティアの3つから調べていく課題について考えを交流した。

##### ③1年防災授業 「学校内にある命を守るものをさがそう」

ねらい：学校内にある自分たちの命を守る物を知り、命を守ろうという気持ちを高める。  
グループに分かれて校内を探検し安全マップにまとめた。クイズ形式で分かりやすく防災主任からの説明を聞いた。校内にある命を守るための物について学び、しっかり覚えることができた。

##### ④4年防災授業 「東日本大震災からの復旧・復興」

ねらい：東日本大震災時の様子、石巻の復興の様子から気づいたことを伝える。  
石巻市の震災当時、復興の様子から感じたことや気づいたことを考え発表することができた。  
復旧、復興の意味についても考えることができた。

#### 4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

- (1) 震災遺構中浜小見学：10月実施 参加児童：4年，5年，6年  
台風の影響で雨模様ではあったが，児童は，語り部ガイドの話真剣に聞き見学していた。事前にワークブックを活用して学んでいたため，避難等の防災意識を高めることができた。
- (2) ワークブックの活用 「震災遺構 中浜小学校 ワークブック」(宮城県山元町作成)  
事前指導でワークブックを活用して指導し，見学時には見学ポイントを示した。見学後にはワークブックを基にして感じたことをまとめることができた。
- (3) 見学を終えて(児童感想から)
  - ・想像を超えていたほど津波は恐ろしいということを知りました。屋上にあと少しで津波の水が流れていたかもしれない緊急事態だったかもしれないのでこわかったです。
  - ・予想していた時よりも中浜小学校の校舎の中に木やいろいろな物がいっぱい中に流れてきて予想よりすごかったです。(4年児童)
  - ・見学して思ったことが三つあります。一つ目は津波の強さです。二つ目は避難です。三つ目は寒さや食料です。予備の毛布や食料を取っておこうかとみんなに提案したいです。
  - ・奇跡は必ず起きるわけではないのでこれからは津波を甘くみないでいきます。平日頃から避難の練習をして地震が来たらすぐに自分を守る行動をしたいです。(5年児童)
  - ・学んだことは自分の命を大切にしようということです。「自分の命は自分で守る」その言葉がとても印象深く自分の命を大切にしないと学校に戻って思いました。
  - ・波の強さ，命の大切さ，今生きていることが奇跡という言葉。将来の人たちに東日本大震災や台風19号のことを伝えていきたいです。(6年児童)

### III 取組を通じた成果と課題

#### 1 成果

- ・災害発生時における地域と学校の避難対応については，概ね共有を図ることはできた。舘矢間地区では，水害に対する避難の在り方が最重要課題であり取組は的を射ている。
- ・災害発生時にどのような避難対応をすればよいか授業実践，ワークショップ，震災遺構見学を通して理解が深まった。
- ・舘矢間地区にある災害特性について概ね児童は，理解することはできた。また災害発生時に避難する場所については，3年以上の児童は，概ね理解している。
- ・学校全体で地域との防災教育を考えていこうという意識が出てきた。
- ・自分たちで課題を見つけ「丸森未来防災フェスタ」で地域へ提案することができた。
- ・ゲストティーチャーとして3名の方(被害にあわれた地域の方，避難所運営にあたった役場の方ボランティア活動にあたった大学生)に話を聞く時間を設定したことで改めて地域や人とのつながりを意識しながら課題を設定することができた。

#### 2 課題

- ・避難所運営について舘矢間連絡協議会と話し合う場を設定していく。
- ・防災に関する体験活動を発達段階に応じて設定することは難しい。

### IV 次年度の取組予定表

- 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施  
地域及び教職員：石巻震災関連施設，石巻震災遺構大川小学校への見学を計画している。  
丸森未来防災フェスタ2022：児童からの提案を地域の方に向け発表する。
- 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施  
防災教育の研究授業を全学年で実践する。学校防災アドバイザーから定期的に講話をもらう。
- 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施  
児震災遺構中浜小学校へは，4年生が毎年見学に行くように計画していく。